JEASが小・中学生向け「ラジオ手作りセミナー」

電波利用や科学技術への興味を深めてほしい

親子で作業、「わーすごい！聞こえたよ！」と歓声

工業会 日本万引防止システム協会（JEAS、稲本義範会長）技術基準委員会と有志メンバーは、総会員数が60社を超えたその感謝の念を恩送りしたいと思い、子供たちと『電源不要のラジオ製作の言い知れぬ感動』を共有して、その体験を通し電波利用や科学技術への興味を深めてもらいたいと、小学生高学年から中学生を対象に「ゲルマニウムラジオ手作りセミナー」を、8月2日にYOTSUYA TOWER（東京都新宿区）で開催した。

ゲルマニウムラジオの仕組みを説明した後、ゲルマニウムラジオを手作り（ハンダ付け工程は主催者側が担当）。最新の防犯トランシーバーシステムも体験した。参加者には「ラジオ」と「JEASジュニア科学メンバー」バッジがプレゼントされた。

機材協力はサイエンスアーツとパトライト。会場協力は高千穂交易。後援は一般社団法人日本自動認識システム協会。監修は神奈川大学附属中・高等学校校長の小林道夫先生（宇宙エレベーターロボット競技会委員長、NHK高校講座情報1監修・講師）。理科実験・工作アドバイザーは筑波大学数理物質系准教授の小林正美先生。

工業会 日本万引防止システム協会は、万引防止システムを製造、販売、サポートする企業の業界団体であり、流通業界の健全な経営、また青少年の非行防止という産業的、社会的役割を果たすべく、行政機関、関連業界団体とも連携し活動をしている。

「ゲルマニウムラジオ手作り・セミナー」の模様

ラジオを最初に完成させた親子が屋外で試聴した

最後に参加者、関係者で記念撮影

主催者あいさつした稲本義範会長は「本日は私たちが少年時代、ほんとうに苦労して作った永遠に聞こえる、電池を使わないラジオを作ります。大人でも苦労するのですが、苦労こそ楽しいところもあります。みんなで一緒になってラジオをつくりましょう」と述べた。

小林道夫先生は「私は今から50年くらい前の小学校の時に、ゲルマニウムラジオを作った経験があります。この部屋がエアコンで涼しいのも電気のおかげ。ゲルマニウムラジオのいちばん面白いところは電気を使わないところ。バッテリーも使わずにラジオが聞ける。そんな装置が皆さんの手で作れますので今日は1日がんばってください」と話した。

作業は手巻コイルにエナメル線を巻くところから始まったが、当初、均一に巻くのにかなり手こずっていた。いっぱい巻いた方が聞きやすいのでしっかり聞こえるようにするのに時間がかかっていた。

ゲルマニウムラジオが完成した親子はさっそく屋外でラジオ放送を聞いていた。「わーすごい！聞こえたよ！」「電波ってすごい！」と歓声があがっていた。